

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500053		
法人名	特定非営利活動法人 いこい		
事業所名	グループホーム いこい		
所在地	岐阜県中津川市瀬戸536-2		
自己評価作成日	令和5年12月1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2191500053-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和6年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度、コロナにより中止したものもありますが、日常生活の中に楽しみを持っていただけるよう、季節行事や誕生日会等を企画しています。またボランティアさんに来ていただいたり、近隣の方から農作物の差し入れをいただいたり、地域の方に理解されながら繋がりを大切に暮らしています。日中は掲示物作りにも力を入れ、活動を通して考えることや指先を使う機会を提供し、充実した時間が送れるように、また掲示した作品を見ることで、季節感や温かみを感じていただけるよう心掛けています。職員の業務負担軽減のために、見守りセンサーの導入や介護記録を電子化することで働きやすい環境になるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、職員の業務負担軽減のために、記録の電子化や見守りセンサー導入など、ITによる業務効率化を図っている。また、職場環境や就業条件の整備等にも取り組んでいる。理念は「笑顔を育てる」とし、利用者を取り巻く全ての人の笑顔が、利用者の笑顔に繋がると捉えて支援を行なっている。室内で出来ることを増やし、季節の行事やレクリエーション、誕生日会、作品作り等を利用者と一緒に行なっている。また、家族との面会も感染対策を講じた上で会議室で実施したり、Zoomを用いたりリモート面会にも対応するなど、事業所一丸となって、利用者・家族を笑顔にできるような理念の実践に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で、理念「私たちは笑顔を育てます」について説明し、全職員が共有できるよう努めている。理念は玄関、リビング、事務所に掲示し、日々目しながら実践している。また職員会議や申し送り、研修の場等で課題を出し、検討し実践している。	理念は職員の目につきやすい場所に掲示し、日々確認しながら支援に努めている。理念を正しく理解し、どう実践すべきか、理事長、管理者、職員で定期的に話し合いながら共有している。個々の目標、課題にも取り組み、利用者サービスにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会員として定例会(常会)や自治会活動(掃除、草刈り)、祭礼等に積極的に参加している。また散歩の際に地域の方に挨拶したり、農作物の差し入れ等もいただいている。	近隣住民から、野菜などの差し入れを受けることもあり、日常的に交流ができています。清掃や草刈などの自治会活動にも参加している。また、地域住民の福祉の相談窓口としての対応を行っている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から運営推進会議を再開した。ご利用者様の様子やサービスの実際について報告(写真等も使用)や話し合いを行っている。	運営推進会議は、自治会、民生委員、行政、家族等が参加している。出来る限り、多くの構成メンバーが出席できるよう、日程に配慮している。行事報告や今後の予定などは毎月発行の「いこい報」で説明している。意見交換の内容は、議事録に詳細に記述し、サービス向上に繋げている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や市の主催するケアマネ部会・グループホーム部会・研修会等に参加し協力関係を築けるよう努めている。また、介護相談員の受け入れやケアマネカフェ(地域包括主催)にも参加している。	行政担当者から、介護保険制度の動向、コロナ感染症対策の指導や助言を得ている。行政主催の様々な会議に参加して連携を深め、利用者サービスにつなげている。公民館で開かれる認知症カフェで、認知症についての話しをする予定がある。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ドアの鍵、ベッド柵、紐で縛るなども含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。見守りセンサーを導入し、転倒防止にも努めている。物理的な身体拘束のみならず、心理的な拘束についても会議や研修を行い指導している。	身体拘束となる事例を取り上げながら、身体拘束ゼロの支援に努めている。「身体拘束等適正化検討委員会・虐待防止委員会」は理事長・管理者・リーダーを構成員として開催している。外部講師による研修会も開催し、全職員が拘束や虐待について学んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束やケア方法について内部研修を行ったり、外部から講師を招いて研修を行い、虐待に繋がらないよう意識付けている。不適切なケアについては、お互いに声を掛けられるよう取り組んでいる。	管理者は、業務上のストレスから不適切ケアに繋がることのないよう、職員と風通しの良い関係作りに努めている。学習の機会を多く設け、虐待を見過ごすことなく、職員間で声を掛け合いながら防止に取り組んでいる。	

岐阜県 グループホームいこい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して、特に成年後見制度について学ぶ機会を持ち日常的に活用できるよう努めていきたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約または規則等改定の際には、ご利用者・ご家族に文書(便り等)や口頭でお知らせし説明している。また疑問点等の問い合わせは常時受け付けている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の要望などは、介護相談員とも協同して把握に努めると共に、日常の言葉や表情などからも思いを汲み取れるよう心掛けている。ご家族からは面会(リモート)や電話連絡の際に何うように努めている。要望の内容については会議等で周知している。	毎月、事業所の状況や活動報告、利用者の写真も掲載した「いこい報」を家族に送付している。管理者は、家族が安心してゆっくり話せるよう、ゆとりある対応で接するよう努め、面会時や電話連絡の際にも家族の要望を聞いている。家族の意見や要望について話し合いながら、運営に反映させている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議を行い、そこで職員の意見を抽出し検討している。また普段の申し送りの中からも職員の意見を聴き反映している。職員からの意見もあり、今年度から新たにユニットで会議をする時間を設けた。	コロナ禍で職員会議が困難な場合も多かったが、最近では、ユニットリーダー会議を設けて、職員と意見交換ができるようになった。理事長は管理者と日常的に意見を交わし、定期的に職員と面談する機会も設けている。職員の意見を尊重し運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員の状態や実績、勤務状況などをリーダーから理事長に報告している。勤務・職場環境に関する相談も理事長や管理者が受け付けている。給与の賃金表を作成し、人事考課査定を行い、意欲向上に繋げている。	法人全体で職場環境・就業環境の整備に取り組んでいる。職員が仕事と子育てを両立できるように、個々の希望に沿って勤務体制作りを行っている。職員間で話し合い、休憩時間及び適切な休憩場所も確保されている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施や外部研修を受講することで、スキルアップを図っている。また介護福祉士実務者研修、認知症介護実践リーダー研修、認知症介護実践者研修、介護職員初任者研修等にも受講できるよう勧めている。	リモートでの研修が多くなり、資格取得がこれまでより受講しやすい状況である。職員個々に必要なスキルアップ研修や資格取得の為の研修受講を推奨している。そのための時間的な配慮もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム部会や研修会(今年度中止)に参加し、交流作りに努めている。会議や連絡ボード等で情報を提供し、出来る限り参加を促し、サービスの質の向上に繋げている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者は野菜の皮むきや裁縫、広告折りなど得意なことをそれぞれに持ってみえるため、一緒に行かないながら教えていただいている。また食器拭きや洗濯物たたみ等も手伝って頂き一緒に行っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々のケアを通じて一人ひとりの思いや意向の把握をしようと努めている。また興味のある事や関心事は職員間で共有している。今年度も行っていないが、誕生日には本人の希望を聴き、個別外出している。	入居時に利用者の状態を把握し、職員間で情報共有している。入居後の個別ケアの中で、新たに本人の希望や要望を把握することも多い。職員は、利用者に寄り添う中で、思いや意向を汲み取り、話し合いながら希望の実現に向けて支援に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とは普段の会話の中から要望や不安等を聞いている。今年度あまり出来なかったが、ご家族とは面会の際、支援の内容を報告し要望等も聞いている。また職員会議や申し送りの中から課題や関心事を見出し、プラン作成の参考にしてている。	管理者は職員と共に現場に入り、利用者の状態を詳細に把握している。担当職員、専門職、医師を交えて話し合い、ケアプランの作成を行っている。家族の訪問時には、利用者の状態を詳しく伝え、家族の要望も介護計画に組み入れている。	介護計画作成会議は、家族が利用者の暮らしぶりや職員との関わり方について、詳細を理解できる場であると思われる。家族もチームの一員となって介護計画について話し合えるよう、家族への提案と実践に期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアにおいては日誌・申し送りなどから職員間で共有できるよう努めている。またご本人の様子や状態等は個別記録に記入し、毎月振り返ることでご本人に合ったケアができるよう検討し、実践している。	日々の個別記録は、電子記録及び日誌も使い、職員間で共有している。利用者が出来なくなったこと、また、出来るようになったこと等、職員の気づきを含めて日誌に記録している。情報の変化も共有し、計画に沿ったケアの継続や見直しに繋げている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人やご家族の状況・ニーズに対応して、できる限り臨機応変にサービスを提供できるよう努めていきたい。	医療機関への受診は家族対応であるが、困難な時は事業所が対応している。家族に代わって、利用者の衣類購入をすることもあ。馴染みの美容院の利用や訪問による整髪など、利用者のニーズに応じて支援している。	

岐阜県 グループホームいこい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は行えなかったが、地域のボランティアさんによる音楽・体操・ゲーム等のアクティビティが行われ楽しまれている。また本人に適した福祉用具を活用できるよう専門業者とも連携している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人・ご家族の意向を伺い決定している。定期通院についてはご家族にお願いしたり、職員が同行したり、月1回の往診をお願いしている。訪看とも連携し週1回の訪問と24時間の連絡体制を整えている。	契約時に、かかりつけ医についての事業所の方針を説明し、ほとんどの利用者が協力医を選択している。月1回協力医の往診があり、訪問看護師による状態観察を週1回受けている。協力医や訪問看護師と連携を図り、利用者の日常の健康管理に努めている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は職員が付き添い情報提供し、退院時は病院からサマリーなどの情報を受けている。その際、できる限りご家族とともに情報を聞くようにしている。入院中は病院の相談員と連絡を取り合い、状態把握と関係作りに努めている。	管理者が医療機関との窓口となり、入院から退院まで家族と連携しながら、職員が付き添い支援している。入院中は、利用者の状態と情報把握に努め、本人が安心して事業所に戻れるよう、受け入れ態勢を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時、重症化や終末期に向けた方針について話をしている。看取りが必要になった際は協力医、訪看を含め十分な話し合いと確認をしたいと考えている。状態が変化した際にはご家族と、本人に適した場所や設備について話し合いをしている。	契約時に、重度化や終末期に向けた事業所の指針を説明し、利用者・家族の同意を得ている。状態の変化時は関係者が十分に話し合い、家族に情報を提供し方針を決めている。医師と家族、関係者で話し合いを重ね、本人と家族の希望に添った支援につなげている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や連絡方法については職員会議で確認している。今後消防署の協力を得て、救急法・AED使用法・異物除去法などの学ぶ機会を作っていきたい。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防設備業者の立ち合いの元、夜間火災想定避難訓練を実施している。引き続き地震・水害対策についても定期的な訓練を行い避難法を身につけていきたい。備蓄(食事・水・毛布)、自家発電装置、貯水槽は設置している。	年2回夜間想定を含めた防災訓練を実施し、誘導、器具の取り扱いの確認、備蓄点検など、詳細に行っている。運営推進会議で報告し助言を得ている。水害、地震対策についても、地域住民と共に話し合っている。火災以外の災害時には、事業所に留まるとしている。	災害時においては、地域と連携を図るためにも、地域が開催する防災訓練などは、積極的に参加し、双方での協力体制作りに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに注意しながら排泄介助や入浴介助などを行うよう心掛けている。「利用者とのかわりについて」の資料を基に職員が心掛けていくことを会議で確認している。	管理者が作成した「利用者とのかわりについて」の資料を基に、ケアに対する姿勢を学んでいる。外部講師による「接遇について」「認知症の理解」等の研修も受講し、言葉遣いや守秘義務、排泄や入浴支援、居室入室時など、利用者の人格を尊重した対応に努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中活動で行ないたいこと等を尋ね、希望に沿った過ごし方ができるよう心掛けている。誕生者外出では、今年度は行えていないが、ご本人の食べたい物や行きたいお店を伺い、個別で外出している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしについて、普段の関わりの中からニーズを抽出し、その人のペースにあった暮らしを実現できるよう支援に努めたい。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一般家庭で普段食べてみえる物を提供できるよう心掛けている。また旬の食材を使い本人に合った形態で提供している。お茶が飲みづらい方にはゼリーにする等工夫している。利用者と職員と一緒に野菜を切ったり、食事したり、片付けをしたりしている。	調理専属の職員が三食手作りし、職員も同じものを食べている。近隣からの差し入れやプランターで育てた野菜も活用しながら、利用者の状態に合わせた形態で提供し、ほとんどの人が完食できている。イベント時には、様々な行事食を提供し食べる楽しみにつなげている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個別記録に記入している。また、栄養バランスにも留意しつつ地産地消を念頭に、楽しい食事を提供できるよう努めている。水分は午前午後にお茶の時間を作ったり、入浴後に飲んだり、適時提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの促しや難しい方には介助している。週2回歯ブラシ、コップ、義歯を消毒している。また訪問歯科とも協力し口腔内のケアに努めると共に、職員に対して口腔ケア指導も受けている。	食後の口腔ケアは、利用者の状態に合わせて職員が介助したり、自分で出来る人には、自信に繋がる声かけをしている。また、訪問歯科医の協力を得て、職員も口腔ケアの適切なやり方の指導を受けながら、利用者一人ひとりの口腔内の清潔保持に取り組んでいる。	

岐阜県 グループホームいこい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表に一人ずつ記録して排泄パターンを把握し、それを基に声かけや介助をしている。職員には介助の方法を伝え実践している。また夜間はポータルトイレを使用して頂くなど、自立できるよう環境面も整備している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回ずつ入浴しており、拒否される方は、時間をおいたり、翌日に変更して対応している。入浴剤やゆず等を入れ、リラックスして頂けるよう工夫している。ご本人が行えない部分を見極め介助するよう心掛け、福祉用具も使い安全に入浴できるよう努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は定めていない。夕食後はリビングや居室で過ごして頂き、就寝して頂いている。日中の休息も体調に応じたり、その時々状況で支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用については、薬局からの説明書を個別ファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしている。服薬管理・介助は医師、薬剤師とも連携し、確実な服薬と症状の変化に早く気付けるよう心掛けている。	薬局及び薬剤師と日々連携し、適切な指導の下で、管理者とリーダーが服薬管理を行っている。一包化された薬には、利用者の名前と日付があり、職員が本人と確認しながら、飲み込むまでを見届け、誤薬防止、飲み残しのないよう支援している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ等を一緒に行うことで、日々の役割の中で張り合いを感じられるよう支援している。また嗜好や趣味、特技などをつかみ、取り入れることで、喜びの時間や気分転換などの支援をしている。	職員は、利用者個々の生活歴や得意な事、出来る事などを家族からも聞いている。利用者の日常生活リズムにも配慮しながら、暮らしの中で個々の持てる力を役割りとして発揮できるよう支援し、喜びや自信に繋げている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はあまり実施できていないが、日光浴や散歩、ドライブ等、戸外に出る機会を提供したり、年間行事として花見、花火、紅葉狩り等、季節を感じられるような外出を企画している。誕生日には本人の要望を聴き個別で外出したり、家族にも協力を得て外で食事したりしている。	コロナ禍で遠出の外出は自粛し、庭の散歩、日光浴などで気分転換を図っていた。プランターで野菜を育てたり、吊るし雛作りや七夕飾り作りなど、室内での企画を多く取り入れ、出来る事で楽しみにつなげている。現在は、地域の感染症拡大状況を見ながら外食にも出掛けている。	

岐阜県 グループホームいこい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所にてお金の管理をしている。ご希望によって少額の現金をご自分で管理し、商店で買い物をしていただいている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望によりご利用者からご家族に電話される際には支援し、安心につなげている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなどの共用空間に花を活けたり、壁に写真や作品を飾ることで、季節感や楽しみのある雰囲気を作り出すよう努めている。またエアコンや床暖房、加湿器により住環境を整えたり、掃除やハンドペーパーを使うなど衛生的な環境になるよう心掛けている。	共用空間は広く、利用者は好きな場所でゆったり寛ぐことが出来る。コロナ禍で外出の機会が少ないため、室内でも季節を感じられるよう、季節感ある様々な作品を飾っている。空調管理に努めながら、清掃や消毒等、感染予防対策を徹底し安心安全な環境作りに努めている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファや椅子を置き、お気に入りの場所に座られている。話がしたいと思った方のところへ移動され会話を楽しまれている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたタンスやテーブル、ご家族の写真や手紙、テレビ、ぬいぐるみ、誕生日に贈られた色紙等を置いてみえる。施設側は特に持ち込まれるものについては制限していない。定期的に居室の清掃も行っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの戸の色を変え区別できるようにしたり、案内札を付けたりして迷わず行けるよう環境面に配慮している。廊下やトイレ、風呂場には手すりを付け安全に自立した生活を送れるよう整備している。		